

「自分で考え、正しく判断し、最後までやり抜く生徒を目指す」



# 小値賀物語



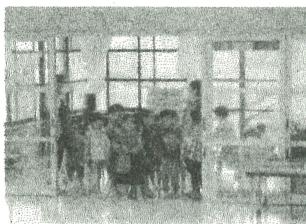
令和2年7月1日発行

小値賀町立小値賀中学校 校長 池田英二

①求めて学ぶ生徒 ②心を高める生徒 ③たくましい生徒

今回の小値賀物語第5話では、6月に実施した行事の紹介と「子どもをほめること」について考えてみたいと思います。まだまだ梅雨が続き、蒸し暑く過ごしにくい時期ですが、皆様方も、体調管理には十分気をつけられてください。ともに梅雨を乗り越えていきましょう！

## 1年生ボランティア活動（6月18日木曜日）



【認定こども園】



【暖家】



【社会福祉協議会】



【憩いの家】

1年生がそれぞれの場所で掃除や交流活動などのボランティア活動を頑張りました。施設の方々からも感謝の言葉をいただき、やりがいを感じて帰校しました。

## 小中高一貫教育海浜清掃（6月19日金曜日）



【船瀬】



【地ノ神島神社】



【赤浜】



【姫の松原】

高校生が活動場所やごみの分別についてわかりやすく指示を出して、中学生は小学生に優しく声をかけながら活動していました。各清掃場所が見違えるようにきれいになりました。

時間帯	A 11:30~16:30 B 8:30~13:30	11:00~17:00
	S SW石橋先生	S C石川先生
4月		
5月		
6月	23日(火)	A 26日(金)
7月	7日(火)	A 17日(金)
8月	20日(木)	A 26日(水)
9月	9日(水) 24日(木)	B 25日(金)
10月	30日(金)	B 30日(金)
11月	25日(水)	B 19日(木) 20日(金)
12月		18日(金)
1月	13日(水)	B 29日(金)
2月	18日(木)	B 26日(金)
3月		19日(金)

### スクールソーシャルワーカー

石橋先生

### スクールカウンセラー

石川先生

### 勤務計画表

本校に本年度勤務していただいています。S S Wの石橋泰輔先生とS Cの石川史子先生の勤務計画表です。保護者の皆さん、ご活用をお願いいたします。

(面談希望者は本校教頭：石井までご連絡ください。小値賀中 56-2177)

## 【小値賀物語第5話のテーマ：「子どもをほめるということ】

現在、多くの学校が抱える教育的課題の一つに、「子どもの自尊感情が低い」という課題があります。これは、本校でも例外ではなく「積極性がなく、反応返事が不十分」「自信がなく一人では行動できない」「積極的に自分の意見を伝えられない」等、その傾向が見られます。そこで私たち教職員は、子ども一人ひとりの自尊感情を高め、「自信」と「誇り」をもたせることに力を入れて日々の教育活動を行うことが必要になってきます。

私が、子どもの自尊感情を高めるために考えている具体的な取組が2つあります。

- ①全教職員が、生徒一人ひとりに「目をかけ」・「声をかけ」・「時間をかけ」・「願いをかけ」ながら、認め、ほめ、伸ばすこと。
- ②教育活動全般において「ねらい」を定め、生徒一人ひとりに「わかる喜び」・「満足感」・「成就感」・「達成感」を味あわせることの2つです。

この2つの取組を、私たち教職員は、日々の教育活動の中で、常に頭に入れて、教育活動を行い、具現化していかなければならぬと考えています。

私は、子どもたち一人ひとりの自尊感情を高めさせ「自信」と「誇り」をもたせるために一番大切なことは、私たち大人が子どもたち一人ひとりを「ほめる」ことだと考えています。

関根 廣志氏の「教師力を向上させる50のメッセージより」という著書の中に「人間関係は自分をほめてくれる人としかできない」というくだりがありますので、紹介します。

人間は、誰しも自分をほめてくれる人が好きである。ほめてくれない人、自分の「良さを認めてくれない人とは、決して人間関係はできない。教師は、習性としてつい子どもの欠点や弱点に目がいき、直してやろうと力んでしまうが、それよりもその子の長所や得意な面に目を向け、それを認め伸ばすために努力したい。それには、自分の心にゆとりをもつことも重要である。ゆとりがなければ相手の良い面は決して見えない。

教師は常に子どもをほめようと考えていれば、自然と笑顔で接するようになり、子どもを育てるための工夫や手だてもそこから生まれてくる。教師のその営みが教師と子どもの人間関係づくりそのものと言ってよい。また、それが子どもを明るく元気にする秘訣でもある。

私自身が自戒の念を込めて、大切にしたい言葉です。日々の学校生活の中で、子どもをほめる機会を増やしていくみたいです。子どもたち一人ひとりをほめる輪が本校の中に、もっと広がれば、もっともっと子どもたちの笑顔も増え、自尊感情も高まると信じています。

### ちょっといい話

先日、車の中で、ラジオ番組を聞いていたら、ある父と娘のエピソードが紹介されました。【父は、出張が多く家にいることが少なかったが、日常のささいなことを見逃さなかった。幼い娘が、玄関の靴をきれいに並べれば「靴を並べる天才」、食卓に箸や茶わんをそろえれば「お手伝いの天才」と。娘が社会人になってからも、パソコンの使い方を教えれば「パソコンの天才」、病気で歩行が困難になった父の手を支えれば「歩行助手の天才」とたたえた。母となった娘は、亡き父の「ほめる」という励ましに支えられて今の自分がいる。今度はわが子の『天才』を見つけたい、と。パーソナリティーは「素晴らしいですね。でもほめるのは難しい。「ほめる天才」を目指したいですね。」と結んだ。】

人はいくつになっても、ほめられたら嬉しいですね。  
50を過ぎてもほめられたら嬉しいのだから、中学生ならなおさら  
ですよね。子どもに限らず、人は欠点を指摘されるよりも、  
ほめられることで『自分がしたことにこんなにも価値があったの  
か』とか『自分にそんな力があったのか』と気づくことができます。  
この発見こそが子どもたちに、一步前に進む勇気と自信をもたらす  
のではないでしょうか。

